【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成27年10月1日(2015.10.1)

【公開番号】特開2014-69065(P2014-69065A)
【公開日】平成26年4月21日(2014.4.21)
【年通号数】公開・登録公報2014-020
【出願番号】特願2012-231213(P2012-231213)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　17/28　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　17/14　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　17/56　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　17/28　３１０
Ａ６１Ｂ　17/14
Ａ６１Ｂ　17/56

【手続補正書】
【提出日】平成27年8月8日(2015.8.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
椎間板ヘルニア摘出術に用いる経皮的内視鏡システムに挿入可能な細長いシャフトを有する器具において、
シャフトの先側に一片のみの顎部を具備し、シャフトの手元側にハンドルを具備し、
顎部の基部を貫く，顎口側方向に平行な枢支軸により顎部とシャフト先側部が連結し、
ハンドル操作で摺動するシャフト内の摺動棒の作用により、顎部が前記枢支軸を支点として、前記枢支軸周りの回旋運動を行うことを特徴とする経皮的内視鏡用器具。
【請求項２】
前記摺動棒は、顎部の顎口側方向に平行な軸により、顎部と連結しており、
摺動棒はハンドルと連結し、ハンドル操作により摺動して、顎部が回旋運動を行うことを特徴とする請求項１に記載の経皮的内視鏡用器具。
【請求項３】
前記顎部には、顎口側の辺縁部に刃もしくは鋸歯を有していることを特徴とする請求項１または請求項２に記載の経皮的内視鏡用器具。
【請求項４】
前記顎部の先部は基部に対してまっすぐか、顎口側方向へ軽度の弯屈曲していることを特徴とする請求項１から３に記載の経皮的内視鏡用器具。